

風情ある城下町として知られる丹波篠山で愛唱されるデカンショ節。
皆が歌い、踊るデカンショ祭は兵庫県を代表する夏祭りである。
祭りの輪の中に入り、心に描くふるさとを感じてみたい。



篠山音頭が流れると華麗な花火が打ち上がり、祭りもクライマックス。毎年2日間で7万人以上が集まる西日本最大級の盆踊りだけあり、デカンショ節保存会を中心とする生演奏・生唄でヤグラ総踊りが盛り上がる。観光客への踊り講習会や丹波杜氏と地元酒蔵会社の協力による鏡開き、古調デカンショ節の披露なども行われる。



上：商店街には小学生が描いた絵を行灯に仕立てた作品が並ぶ。ほのぼのとした手作り感がある。下：デカンショ祭のメインであるヤグラ総踊り。誰もが自由に参加し、夏の夜を楽しむ。踊りはかつては各流派により異なっていたが、今はテンポも少し速めてシンプルにし、誰もが踊れるような踊りにしたという。

Text by Junko SEKIYA



Column

日本の夏祭りの象徴 京都の祇園祭

7月1日の神事始めである吉符入から1か月にわたり祭事が行われる祇園祭。疫病の流行を鎮める御霊会に起源があり、1150年以上の歴史を有する八坂神社の祭礼である。なかでも山鉦巡行と宵山はよく知られるところで、7月17日の前祭では23基の山鉦、24日の後祭では11基の山鉦が市中を巡行する。提灯の灯りと響き渡る祇園囃子のなか、間近で山鉦を愛でる宵山の風情、そして動く美術館と称される絢爛豪華な山鉦が練り歩く躍動感ほ祭りの白眉である。

また、辻々に姿を現す山鉦が、釘を一本も使わずに縄だけで組み立てられる山建て、鉦建ての伝統の技、町衆が集結する神輿渡御や優雅な花傘巡行など、見どころが多いのも祇園祭の特徴。古の都の歴史が凝縮された艶やかな祭りである。



Information

祇園祭2024

開催日：2024年7月1日（月）～31日（水）
場所：八坂神社（京都市東山区祇園町北側625番地）



全国各地の知られざる魅力を
ダイナスクラブの
目利き力をもってお届けします。

本誌86～87ページを
あわせてご覧ください。

巨大ヤグラを囲み
老若男女がひとつになる。
これぞ日本の盆踊り

Information

丹波篠山 デカンショ祭

開催日時：
2024年
8月15日（木）：15:00～22:00
8月16日（金）：16:45～22:00

開催場所：
篠山城跡三の丸広場周辺
（兵庫県丹波篠山市北新町）

- 主な催し（予定）：
- ・ヤグラ総踊り
（日本有数の巨大木造ヤグラでの総踊り）
 - ・競演会
 - ・ジュニア競演会
（デカンショ踊りコンテスト）
 - ・古調デカンショ節披露
 - ・鼓篠組
 - ・踊り講習会
 - ・打上花火
 - ・屋台村、巨大夜店街
 - ・あんどん祭と装飾コンクール
（商店街全域）
 - ・演奏会等各種イベント

お問い合わせ
デカンショ祭 実行委員会
電話：079-552-0758 （平日8:30～17:30）

右2点：小・中学生によるヤグラ演奏会。
日ごろの部活動の成果を披露。下：小
学生らが連をつくり参加するジュニア競
演会。「ヨーイヨーイ、デカンショ！」と
声をあげながら、息の合った踊りを披露。
2023年はコロナ禍を経て4年ぶりの開催
であった。デカンショ節は毎年、丹波
篠山の魅力などが伝わる歌詞を公募し、
大賞・優秀賞を決める。



兵

兵庫県中東部、古来京都への交通の要衝として栄えた丹波篠山市。まちの中心には江戸時代に徳川家康の天下普請により完成した篠山城の石垣などが残り、城を取り囲むように武家町と商家町が形成されている。なかでも土堀に囲まれた武家屋敷がある御徒士町武家屋敷群や、うだつの上がる商家が並ぶ河原町妻入商

家群が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定。歴史の痕跡が色濃く残る。人口約4万3000人の静かな城下町が熱気に包まれるのが、毎年8月15日・16日に開催されるデカンショ祭である。西日本最大級の民謡の祭典で、城跡の三の丸広場に高さ9メートルもの巨大な木造のヤグラを組み、地方の囃子と唄に合わせて、10000人を超

える踊り手が踊る。町家の軒先の提灯に火が灯る頃には、踊りの輪は何重にもなり、デカンショ節の力強くシンブルな節回しがお盆の郷愁と重なりあう。デカンショ節の始まりは、江戸時代から歌われていた盆踊り唄「みつ節」にあるとされる。その語源は、唄の掛け声である「どっこいしょ」が転訛したなどの諸説があり定かではない。しかしデカンショという不思議な言葉は、明治時代後期、丹波篠山から東京、そして全国に波及する。そのきっかけは、1898年の夏、千葉県館山の旅館に遊学中だった丹波篠山出身の学生たちが旧制一高（現東京大学）の学生に地元民謡として伝えたことによる。

デカンショデカンショで半年暮らす（ヨイヨイ）、あとの半年寝て暮らす（ヨイヨイ） デカンショ）

学生らにとつてのデカンショは、デカルト、カント、ショーペンハウエルの三哲学者のこと。この語呂合わせの良さも手伝い、バンカラ調のデカンショ節が多く若者に伝播し、愛唱歌のように広がった。そして1953年に第1回デカンショ祭が開催され、2024年は第71回を数える。

「デカンショ祭の魅力は、誰もが飛び入りで参加できる総踊りにあります。観光客の方も見よう見まねで楽しそうに踊り、皆がひとつになります」と話すデカンショ祭実行委員会の宮崎葵生さん。また、丹波篠山デカンショ節民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶」というストーリーで、2015

年に日本で第一号となる日本遺産に認定された。400番以上の歌詞には丹波篠山の風土や気質、名所、名産品などが織り込まれ、今も新しい歌詞が生まれている。

丹波篠山山家の猿が 花のお江戸で芝居する

丹波篠山山奥なれど 霧の降るとき
や海の底
灘の銘酒はどなたがつくる おらが
自慢の丹波杜氏
雪がちらちら丹波の宿に 猪が飛び
込む牡丹鍋
ふるさとを愛する人々の想いが込められたデカンショ祭。祭りを体験し、山々に囲まれた美しいまちを歩けば、かけがえのない地域の宝物があることにあらためて気づくはずだ。